

Color Gallery

シリーズ

匠の化学

漆喰の文化と化学 沢辺大輔, 鳥越宣宏

我が国固有の有機物を加えた漆喰は、ひび割れ防止や強度向上にすさが寄与し、のりによる適度な粘性と保水性を得たことで作業性を大きく向上させた。その結果、左官職人の手によって塗り仕上げられた漆喰の壁や天井は、凹凸のない緻密性や顔が映るほど光沢を出して鏡面に仕上げる技法、漆喰壁に絵や模様を浮かび上がらせるよう鏝で描く鏝絵など、我が国伝統の左官技術を生み出し、独自の建築文化が生まれるに至った。P130-131



姫路城〔国宝 世界文化遺産 (1993年登録)〕

白鷺城の愛称で親しまれる世界文化遺産の姫路城は、平成の大改修(平成27年3月竣工)後に「白すぎ城」と評され、注目を浴びたことは記憶に新しい。その雄大で眩しく輝く白壁が漆喰の特長である。漆喰は耐久性や防火性能の観点から城郭、武家屋敷、町屋などの内外壁に利用されてきた。一時は住宅様式の変化や建築材料の多様化に伴って衰退したが、自然素材や住宅環境への関心が高まり、漆喰の良さが見直されてきている。

鏝絵(匠の舞) 大久保 雅 作

右の鏝絵は、鏝絵を芸術の域まで高めた伊豆の長八(本名:入江長八)の孫弟子にあたる大久保雅氏の作品である。その技術の真髄は、脈々と今日まで受け継がれている。

